

News! the 世界遺産

バンダリン前世界遺産センター長が来日会見。富士山に「私的訪問」

2011年春まで10年間にわたってユネスコの世界遺産センター長をされ、事務局長補(文化担当)になられたフランチェスコ・バンダリンさんが7月に来日され、日本記者クラブ(東京・日比谷)で記者会見を行いました。センター長として300件に及ぶ登録にかかわってこられた世界遺産のエキスパートならではの濃い会見でした。鎌倉世界遺産登録推進協議会からは2人が会見に参加し、お話を伺いました。

バンダリンさんは「無形遺産など(ユネスコの)文化的な活動に広くかかわっている日本政府と協議のためにやってきた」と来日の目的に触れ、「二つの重要な訪問」として鎌倉と並んで次の登録地として最有力視されている富士山と新規登録されたばかりの平泉を訪れる意向を明らかにしました。

また「審査を受けてから最終的な決定を見るまでは、かなり長いプロセスとなる。3～4年かそれ以上かかる場合もある。とくに遺跡に関しては1～2年たってから再度審査ということになっている」として世界遺産リストに暫定登録されている地域にとっては、重要な指摘もありました。

今回の訪問の重要課題の一つ来年11月の日本での世界遺産条約制定40周年記念式典については、条約の下で遺産・遺跡の保存とともに経済の発展を心がけていきたいとして、テーマを「世界遺産と持続可能な開発およびローカルなコミュニティの果たす役割」とすることになったと述べました。



右はバンダリンさん、一人おいて城之内ミサさん。(写真提供:日本記者クラブ)

作曲家・シンガーソング・ライターの城之内ミサさんも会見に同席されました。城之内さんは先月末パリで開催された世界遺産委員会の会場でコンサートを開くなどユネスコ平和芸術家として活躍、東日本大震災では東北地方の復興をテーマにキャンペーンを展開しています。バンダリンさんは音楽という新しいメディアを通しての世界遺産の広報活動について抱負を語っておられました。

会見後の質疑応答で「富士山に行かれてなぜ鎌倉には来られないのか。同じ武家社会を背景とする平泉の後だけに鎌倉の登録には影響がないのか」との質問に、「三日間の滞在なので、時間がなかった。鎌倉に限らず行ってみたいところはいろいろある。鎌倉と平泉については背景に共通性があるということで問題になるとは思わない。一番重要な判断の要素は顕著な普遍的価値があるかどうかということだ」と答えていました。

鎌倉市展世界遺産部門が開催されました

平成23年9月24日から10月4日まで、鎌倉芸術館ギャラリーにおいて市民文化祭の鎌倉市展世界遺産部門(美術展・写真展)が開催されました。



今年で4回目となる今回は、絵画16点、写真34点の応募がありました。審査の結果、大仏切通、和賀江嶋や覚園寺の百八やぐらをモチーフにした絵画3点と、建長寺、円覚寺や称名寺をモチーフにした写真4点が優秀作品として選ばれました。

最終日の10月4日に、一般部門と合同で表彰式が行われ、推進協議会会長でもある松尾崇市長より、入賞者へ表彰状と副賞が授与されました。

作品の展示風景